

10. 若年者の顎関節症に関する疫学的研究

○大野秀夫, 住 和代, 畠田慶子, 旭爪伸二, 堀川清一, 森主宜延,
小椋 正

(鹿大・歯・小児歯)

顎関節症の初発期は過去の報告から10代前半といわれており、いわゆる思春期は顎関節症発症にとって重要な時期と考えられる。しかし、成人を中心とした疫学調査は多数報告されているものの、小児を対象とした一般集団調査はGrosfeldの報告のみである。

そこで、我々はアンケートを用いた自覚的調査と臨床的な他覚的調査を行い、顎関節症状の発現頻度と問題点を抽出したので報告する。

11. 学童期の永久歯齲蝕罹患に関する疫学的研究(第1報)

— 数量化理論Ⅰ類・Ⅱ類による検索 —

○川口辰彦, 塚本末廣, 吉田 穰(福歯大・小児歯)
木村光孝(九歯大・小児歯)

今回、演者らは福岡市姪浜、日佐の両小学校計312名、中華民国台北市吳興国民学校302名のそれぞれ6年生を対象として、歯科検診、質問紙法による生活習慣、環境調査を実施した。これより得られたデータを基にして福岡市、台北市の学童の永久歯齲蝕罹患状況及び生活習慣、環境要因の比較検討を行ない、若干の知見を得た。今後、得られた要因を説明変数とした数量化理論Ⅰ類、Ⅱ類による齲蝕疫学的研究も、さらに行う予定である。